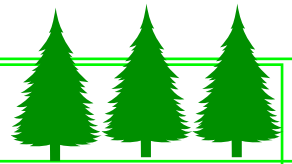


みつぎ便り



第236号 5月号 令和8年5月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



オダマキ

オダマキはキンポウゲ科の春から初夏にかけて花を咲かせる多年草です。見次公園では、噴水の奥の階段を登る途中にひっそりと咲いています。うつむき加減の可憐な花で、自然の中で自生し咲く花、身近な野に咲くかわいらしい小花などを見つけると、なぜかながめるだけでホッと優しい気持ちになります。

葉はクローバーの先をゆるやかな波型にカットしたような形で、通常は三枚です。中には四枚に見えるもの



のもあり、一瞬四葉のクローバーを見つけたような嬉しさがあります。

見次公園では青紫く白のグラデーシオンが優しい色合いです。ピンク、イエロー、パープルなど、カラフルな色合いもあります。園芸店でも販売しており、丈夫で育てやすく日当たりの良い花壇や植木鉢で寄せ植えも楽しめます。

ただ昨今、夏場はとても暑くなる東京では、夏は風通しの良い直射日光の当たらない場所を選んであげた方が良さそうですね。お花のためにも、程よい暑さの夏であってほしいものです。
(朋)

カベアナタカラダニ

その名前の通り壁やコンクリートの破れ目等に住む、体長一ミ中

○・六ミと、とても小さなダニで日本中に生息しています。体は楕円形で八本の足も全て鮮やかな赤です。ダニと思うだけで不気味ですが、人を刺すことはありません。まれに体液に触れると、かぶれる人もいます。真つ赤なダニですが、血を吸うわけではありません。
このダニにはオスはいなくメスだけで繁殖する単為生殖で、梅雨の頃穴やすき間で産卵します。親は卵を抱えたまま寿命を終え、卵は成虫の体内で体制とよばれ育ち、翌春孵化し花粉等を餌として活発に動き廻ります。住み家の穴は狭いので暖かく外敵に襲われにくいいため、爆発的に発生する事も多いようです。
この原稿を書きながら筆者もゾツ
(静)

